

家族で映画制作に関わって

長崎県諫早市で建築金物業を営むTさん（39歳、男性）

は去年の夏、家族ぐるみで地元映画制作プロジェクトに

関わった。長崎の離島を舞台に、少年少女4人のひと夏の

冒険を描いた映画「池島譚歌」の主人公に、息子が起用

されたからだ。

新聞で子役募集の記事を読んだTさんの妻が、どんな役

でもいいから記念になればと、軽い気持ちで応募したのが、この発端だった。

「合格しただけでも驚いたのに、ましてや主役なんて」

ズブの素人に演技などできるのかと、最初は半信半疑だったらしい。しかも、送られ

てきた台本には、せりふがびつしり。息子の姉ふたりが相手役を務め、必死に頭にたたき込んだ。

撮影は、学校が夏休みに入ってから始まった。息子が参加した4週間の離島での撮影

合宿が終了し、長崎市内に舞台が移ってから、今度はTさん自身が本格的に制作に参加

することになった。

この映画のラストシーンは、レールの上をカメラが1

秒にわたって横移動しながら撮影するというもの。前代未

聞の挑戦だったが、全国から撮影用レールをどんなにかき

集めても、500円にしかなかった。しかも、500円にしかなかった。

頭を抱える監督に対し、すでにスタッフの一員かのような協力をしていたTさんは

「僕が何とかします！」。実際の撮影用レールを見せても

らい、塩化ビニールのパイプで代用できると考えた。それ

からは本業そっちのけでレール作りを始め、なんとか撮影

予定日に間に合わせた。

しかし、問題は撮影当日に起きた。100人を超えるボ

ランティアスタッフと一緒に前夜からレールを敷いていた

のだが、その日は気温が30度を超える暑さ。アスファルト

の照り返しもあり、塩化ビニールが想像以上に熱で伸びてしまいい、グニャリと曲がって

きたのだ。

そこで、一度レールをバラして組み立て直すという作業

を炎天下で敢行。ボランティア全員の協力のおかげで、無

事に移動撮影は成功した。

終了後、Tさんは人目もはばからず、男泣きした。

「みんなでやったという達成感かな」。何の見返りもないのに、共通の目標に向かっ

て、全員がひとつになれたということに感動した。

それ以外にも、この映画制作で予想外の収穫があった。

ボランティアスタッフとは飲み仲間になるなど、仕事以外の

人とのつながりができた。また、息子がたくましく成長

した。そして、Tさんが最も実感しているのは、家族の絆

が一層強くなったことだそう